

科研費 L^AT_EX の使い方

日本学術振興会 学術システム研究センター 数物系科学専門調査班
大阪大学大学院理学研究科 物理学専攻
山中 卓

2007 年 4 月 4 日

概 要

科学研究補助金の応募書類を L^AT_EX を用いて書く新たな方式を、学術システム研究センターで開発した。その使い方と仕組みを解説する。

改訂歴

- 2007 年 4 月 4 日：2007 年春の応募向けに改訂

こんなものを読まずに、まずは試してみたい場合は、若手研究 (スタートアップ) のファイルを
<http://osksn2.hep.sci.osaka-u.ac.jp/~taku/kakenhiLaTeX/> もしくは
<http://jelt.mtk.nao.ac.jp/~iye/kakenhiLaTeX/> からダウンロードし、
xxx_def/wakate_startup.tex (xxx =sjis, jis, euc [使用する文字コード]) をコンパイルしてください。

目次

1	科研費 L ^A T _E X とは	3
2	基本的な考え方	3
3	使い方	3
3.1	入手先	3
3.2	必要なファイル	4
3.3	動作環境	4
3.3.1	Linux (Debian) の場合	4
3.3.2	Scientific Linux の場合	5
3.3.3	Mac OS X の場合	5
3.3.4	Windows XP の場合	5
3.4	手順	5
3.4.1	まず、サンプルをそのままコンパイルする	5
3.4.2	編集	6
3.4.3	予算の表の編集	7
3.4.4	研究組織、および分担者	8
3.4.5	仕上げ	8
4	L ^A T _E X ソースの説明	9
4.1	基本方針	9
4.2	ユーザーの書くファイル	9
4.3	様式等を定義するファイル	10
4.3.1	内容が 1 ページ内に収まる場合	10
4.3.2	内容が複数ページにまたがる場合	10
5	マクロの説明	10
5.1	予算の表計算のための L ^A T _E X マクロ	11
5.2	表の中身の位置を調整するための L ^A T _E X マクロ	11
5.2.1	例	12
5.3	picture 空間の座標	12
5.4	文章などを枠内に入れるための T _E X マクロ	12
6	困った時は	12
6.1	よくあるかもしれない質問集	12
6.1.1	用いるファイルの種類	13
6.1.2	編集	13
6.1.3	L ^A T _E X のコンパイル / タイプセット時	14
6.1.4	電子申請	14
6.1.5	その他	14
6.2	質問、コメント	15
7	謝辞	15

1 科研費 L^AT_EX とは

「科研費 L^AT_EX」は、日本学術振興会と文部科学省の科学研究補助金の応募の書類を、L^AT_EX で書くためのものです。これにより論文で使い慣れた方法で、数式や記号、箇条書きなどを楽に美しく書くことができます。

今までも、科研費の書類の L^AT_EX 化は有志によって長年行われてきました¹。今回の「科研費 L^AT_EX」は、これとは独立に、日本学術振興会の学術システム研究センター・数物系科学専門調査班²の活動の一つとして、作ったものです。この新たな方法では、様式が公式のものと完全に一致することが保障されるため、日本学術振興会の公認を得ることができました。

2 基本的な考え方

「科研費 L^AT_EX」の基本方針は、PDF で提供されている様式を利用し、普段用いている L^AT_EX の知識で、できるだけ単純に書類を作ろうというものです。基本的な手法は次の通りです。

1. 公開されている PDF の様式を 1 ページごとに切り分けた PDF と eps のファイルを用意しました。これらのファイルを各ページで `\includegraphics` を用いて図形として取り込みます。
2. あとは、枠の位置を指定して、その中に文章や表を流し込みます。

この手法には、次の利点があります。

- 学振の提供している PDF の様式をそのまま用いるため、様式が公式のものと完全に一致します。
- Word と異なり、入力に伴って枠がずれたりすることがないので、ユーザーは書く内容に専念することができます。
- 様式に埋め込む文字の場所は、LaTeX のソースの中で簡単なマクロを用いて指定されているため、必要であればユーザーが簡単に微調整できます。

3 使い方

3.1 入手先

科研費 L^AT_EX の公式サイト

<http://osksn2.hep.sci.osaka-u.ac.jp/~taku/kakenhiLaTeX/> もしくは <http://jelt.mtk.nao.ac.jp/~iye/kakenhiLaTeX/> から、必要な種目のファイルをダウンロードしてください。tar.gz ファイルは、Linux 上では例えば次のようにして解凍してください。

```
$ gunzip kiban_ab.tar.gz
$ tar xvf kiban_ab.tar
```

Mac OS X の上では、tar.gz もしくは zip ファイルをダブルクリックして下さい。

¹「科研費マクロ」(<http://www.yukawa.kyoto-u.ac.jp/contents/researcher/kakenhi.html>)。この方法は、各欄の情報を書き入れればあとはマクロがそれらを集めて、科研費の種目に合わせて整形します。科研費の様式の枠や文字まで含めて生成する構造になっており、T_EX のマクロと科研費マクロ群の構造をよく理解している有志の「科研費マクロ・サポートチーム」が、この開発と維持を行ってきました。

²<http://www.jsps.go.jp/j-center/index.html>

3.2 必要なファイル

種目ごとのファイルを固めた tar.gz もしくは zip ファイルを解凍すると、次のファイルが入っています。

- kakenhi2.sty のスタイルファイル。これに、基本的なマクロが入っています。
- 様式の各ページを図形として切り分けたファイルの入った directory。様式のファイルは pdf 形式と eps 形式の 2 種類があり、それぞれ、*kiban_ab_forms.pdf*、*kiban_ab_forms.eps* などの directory に入っています。
- サンプルの L^AT_EX のソースファイル (*kiban_ab.tex* など)。文字コードは shift_jis, euc, jis の 3 種類を用意しました。

また、ファイルの形式も、

- ユーザーの書く内容が一つのファイルにまとまった def 形式、
- ユーザーの書く内容をページごとに別のファイルに切り分けた def_multi 形式

の 2 種類を用意しました。(2006 年秋当初にあった raw 形式は、後から追加された新しい機能や修正に対応できないため、廃止しました。)

表 1: L^AT_EX のソースファイルの入っている directory

文字コード	shift_jis (for Mac OS X, Windows)	euc (for Linux)	jis
ユーザーの書く内容が一つのファイルにまとまった def 形式	sjis_def	euc_def	jis_def
ユーザーの書く内容がページごとに別のファイルに分かれた def_multi 形式	sjis_def_multi	euc_def_multi	jis_def_multi

3.3 動作環境

基本的には、Linux, Mac OS X, Windows など、どのシステムでも使えます。ただし、コンパイルした結果のプレビューの仕方、使える読み込む様式のファイルの形式に、若干の違いがあります。次の環境で、動くことが確かめられています。

3.3.1 Linux (Debian) の場合

- eps の様式ファイルを用いる場合
 - platex でコンパイル
 - dvipdfmx で PDF に直し、acroread で見る
- pdf の様式ファイルを用いる場合
 - platex でコンパイル
 - 20050823 以降の dvipdfmx でコンパイルし、acroread で見る。dvipdfmx 20040411 の場合は dvipdfmx -V 4 と、"-V 4" のオプションをつける。

3.3.2 Scientific Linux の場合

- eps の様式ファイルを用いる場合
 - platex でコンパイル
 - pxdvi でプレビュー
 - dvipdfmx で dvi から pdf に変換

3.3.3 Mac OS X の場合

- eps, pdf、どちらの様式ファイルを用いる場合も
 - TeXShop (裏で platex が走る) でコンパイルすると、
 - すぐに PDF に変換されたページが TeXShop で見える。
 - pdf の様式ファイルを用いた方が、高速に処理される。

3.3.4 Windows XP の場合

- eps, pdf、どちらの様式ファイルを用いる場合も
 - pTeX でコンパイル
 - dviout でプレビュー
 - dvipdfmx で PDF に変換

3.4 手順

以下、基盤 (A,B) (*kiban_ab*) を例に取って手順を説明します。" *kiban_ab* " の部分は、応募する種目によって読み替えて下さい。

3.4.1 まず、サンプルをそのままコンパイルする

1. まず、自分の環境で使われる文字コードの def 形式の directory (sjis_def or euc_def or jis_def) を選び、その中のソースファイル (*kiban_ab.tex*) を日本語の扱える \LaTeX (\pLaTeX ³でコンパイルしてみてください。sample.pdf directory 内のあらかじめコンパイルした PDF ファイル *kiban_ab.pdf* と見比べて、正しくできていることを確認してください。
2. 「応募内容ファイル」を電子申請で提出する種目の場合は、dvipdfmx などを用いて、PDF ファイルを生成できることを確かめてください。postscript (ps) ファイルは電子申請では受理されません。

³pLaTeX: Linux の場合は、TeXWiki <http://oku.edu.mie-u.ac.jp/~okumura/texwiki/>、Windows の場合は、角藤氏のサイト <http://www.fsci.fuk.kindai.ac.jp/~kakuto/win32-ptex/web2c75.html> などから download できます。Mac OS X の場合は、小川氏のサイト <http://www2.kumagaku.ac.jp/teacher/herogw/> などから download できます。http://osksn2.hep.sci.osaka-u.ac.jp/~taku/osx/install_xtexgsv.html もご参照ください。

3.4.2 編集

1. ユーザーが編集するファイルは、*kiban_ab.tex* です。def_multi 形式の場合は、その他に *kiban_ab_xx_zzzz.tex* (xx はページ番号、zzzz は内容の説明語) もあります。

Mac OS X の TeXShop⁴や mi⁵のように、\section や \subsection に跳べる機能を持つ場合は、def 形式が便利です。

Windows の Winshell のように、複数のファイルを切り替える方が使いやすい場合は、各ページごとにファイルに分かれた def_multi 形式が便利です。

Linux など Emacs や vim などを使われている場合は、使いやすい方をお選びください。

2. 図形として読み込む「科研費の研究計画調書の様式」は、eps と PDF の二種類から選ぶことができます。Default は eps になっており、システムに依らず動くように、フォントを埋め込んであります。しかし、PDF の様式を使える場合は、その方が一般的に速く処理できます。PDF の様式を選ぶときは、次のように *kiban_ab.tex* の初めの方の 1 行を次のように、行の頭の % を消してその行を有効にしてください。

```
% = = = 様式のファイルの形式の指定 = = = = =  
% eps ではなく、PDF の様式を読み込む場合は、次の行の頭の % を消してください。  
\setboolean{usePDFform}{true}  
% = = = = =
```

PDF の様式を用いた場合は、xdvi を用いて dvi ファイルを見るよりは、dvipdfmx などを用いて PDF に変換してから見ることをお勧めします。dvipdfmx は最新のもの (20050823 以降) を用いてください⁶。それでも正しく表示できない場合は、eps の様式を用いて下さい。

3. ソースファイル (*kiban_ab.tex*) の初めの方の "Global definitions for the Kakenhi form" の下を編集し、研究課題名、研究機関名、研究代表者氏名と所属機関、研究期間の最終年度などを書き変えてください。これらは、応募書類の様々な場所で使われます。
4. よく使う記号などは、ソースファイルの初めの "my personal definitions" の下に定義してください。
5. 続いて、ファイルを編集してください。編集する箇所は、

```
%begin 研究目的 = = = = =  
%end 研究目的 = = = = =
```

のように、「= = = = =」ではさまれた部分です。基本的に、サンプルの書き方をまねて、内容を書き換えていくのが確実です。

6. 文章の部分は、普通の L^AT_EX の要領で記述します。箇条書きなどもできますし、式や特殊記号も書けます。
7. 文章の部分では、\includegraphics を使って図を入れる事もできます。また、\begin{wrapfigure}{位置}{幅} ... \end{wrapfigure} を使うと図の横に文章を回り込ませることもできます。また、同様に \begin{wraptable}{位置}{幅} ... \end{wraptable} を用いると、表の横に文章を回り込ませる事もできます。

⁴<http://www.uoregon.edu/~koch/texshop/texshop.html>

⁵<http://www.mimikaki.net/>

⁶dvipdfmx 20040411 の場合は、dvipdfmx -V 4 xxxx.dvi のように、「-V 4」のオプションをつけてください。

8. 「研究計画・方法」、「研究計画・方法つづき」のように、複数のページにまたがる項目も、自動的にページをまたいで表示されます。figure や table などの float 環境も自由にページ間を動けますし、お好みならば multicols.sty を用いて 2 段組みで書く事もできます。
9. 各ページに、ダミーの \section, \subsection などを入れていますので、Mac OS X の TeXShop や mi などエディターでは、直接そのタグに跳ぶことができます。
10. 特別推進研究 (S-1-1 の特推-4)、特定領域 (S-1-7 特定-11)、特定領域公募研究 (S-1-6 特定(公募)-11)、特定領域新規領域 (S-1-4 特定-11) のページなどは、必要に応じて追加する必要があります。そのため、サンプルには、1 ページずつ追加ページを入れてあります。def 形式と def_multi 形式によって、ページの削除/追加の仕方が次のように異なります。
 - def 形式の場合
 - 追加ページを削除する場合は、そのページの終わりで form を読み込んでいる部分を、例えば次のようにコメントアウトしてください。
`%\input{forms/tokusui_form_04add.tex} %<<< このページが不要ならコメントアウトして下さい`
 - 新たにページを追加する場合は、ソースの中の追加ページの部分を copy & paste で増やし、文章を書いてください⁷。
 - def_multi 形式の場合
 - 追加ページを削除する場合は、タイプセットするメインのファイル (例えば tokusui.tex) の中で、その余分なページを \input{...} で取り込んでいる行を次のようにコメントアウトしてください。
`%\input{tokusui_04add_final_year} % 追加分`
 - 新たにページを追加する場合は、追加のためのファイルをコピーして別の名前をつけ、それをメインのファイルに例えば次のようにして取り込んで下さい。
`\input{tokusui_04_final_year}
\input{tokusui_04add_final_year} % 追加分
\input{tokusui_04add_final_year2} % さらに、tokusui_04add_final_year2.tex を追加`

3.4.3 予算の表の編集

1. 予算などの表の部分は、\tabular で書かれています。サンプルの中に示すように、金額は必ず

```
\KLItemCost{品名}{金額}
\KLItemNumUnitCost{品名}{個数}{単価}
\KLYearItemNumUnitCostTwo{年度}{品名}{個数}{単価}{設置機関}{購入時期}
```

などのマクロを用いて書いてください。これにより、年度や項目ごとの小計や総計が自動的に計算されます。詳しくは 5.1 節をご覧ください。

(2006 年秋の版で必要だった、年度区切りの位置の調整は不要になりました。)

2. 予算の年度別、項目別の一覧表を作ることができます。ファイルの初めの方で

⁷追加ページの文章は、\renewcommand{...} を使って同じコマンドを定義し直しています。そのあと、ページごとに forms ファイル (例えば forms/tokusui_form_04add.tex など) を読み込むことによって、それらのコマンドを枠に入れて表示します。一旦表示してしまえば、それらのコマンドの内容は不要ですので、それ以降の追加ページでは \renewcommand{...} で再利用できます。

```
% == 予算の表の印刷 ==
% 予算の集計の表を出すためには、次の行の頭の%を消してください。
\setboolean{BudgetSummary}{true}
% ==
```

のように行の頭の%をはずしてコンパイルして下さい。

3. 予算の年度・項目別の表を上で示した方法で作り、最後のページの表の下にあるチェックリストに従って、予算額の確認をしてください。

3.4.4 研究組織、および分担者

1. 基盤研究 (S) の場合は、研究分担者ごとに「研究者調書 S-11,12,13,14」が必要です。buntansha.kiban.s.11-14.tex のコピーを各分担者ごとに作ってください。buntansha.test.tex の最後の方の行を編集して、分担者のファイルを \input で取り込むことにより、研究調書のみを単独でコンパイルすることもできます。最後に、kiban.s.tex の最後に、\input を用いて分担者のファイルを並べて取り込んでください。
2. 特別推進研究 (新規) の場合も、研究分担者ごとに「研究者調書 特推 13-17」が必要です。buntansha.tokusui.tex のコピーを各分担者ごとに作り、記入してください。buntansha.test.tex の最後の方の行を編集して、分担者のファイルを \input で取り込むことにより、研究調書のみを単独でコンパイルすることもできます。最後に、tokusui.s.tex の最後に、\input を用いて分担者のファイルを並べて取り込んでください。
3. Web での「応募情報」入力に役立つように、研究組織の表を作ることもできます。group.table.tex を編集して、研究代表者と分担者の必要な情報を書いてください。この表は、上で述べた、予算の年度別・項目別の一覧表を作ると、できます。すなわち、

```
% == 予算の表の印刷 ==
% 予算の集計の表を出すためには、次の行の頭の%を消してください。
\setboolean{BudgetSummary}{true}
% ==
```

のように行の頭の%をはずしてコンパイルして下さい。研究代表者と分担者に配分した初年度の予算の合計が、初年度に予定されている額と等しいことを確かめてください。(異なると、ERROR と表示されます。)

3.4.5 仕上げ

1. Web で入力する「応募情報」の予算の表の金額が、 \LaTeX で作った表と一致することを確かめてください。
2. ファイルの初めの方の一行を

```
%\setboolean{BudgetSummary}{true}
```

のようにコメントアウトして、コンパイルし直して下さい。
3. 「象の卵」のサンプルの内容は、よもや残っていませんか？
4. 電子申請でこの「応募内容ファイル」を web から送る場合は、できた PDF ファイルが 3MB 以下であることを確かめてください。もし、3MB を越える場合は、取り込んでいる写真の解像度を下げてください。

4 L^AT_EX ソースの説明

ここでは、応募書類が「科研費 L^AT_EX」でどのようにして作られているのか、説明します。興味のある方は、ご覧ください。

4.1 基本方針

基本的には、L^AT_EX 標準の `picture` 環境を用いて各ページに `picture` 空間を作り、その中にそのページの様式のファイルを図形として貼付け、ユーザーの書いた文章などを配置します。

実際には図 1 のように、ユーザーの書く内容を定義するファイルと、各内容を表示する位置や読み込む様式ページを定義するファイルを分けています。通常、後者のファイルをユーザーがいじる必要はありません。

以下、ユーザーの書くファイルと、様式などを定義するファイルについて基本的な仕組みを簡単に説明します。

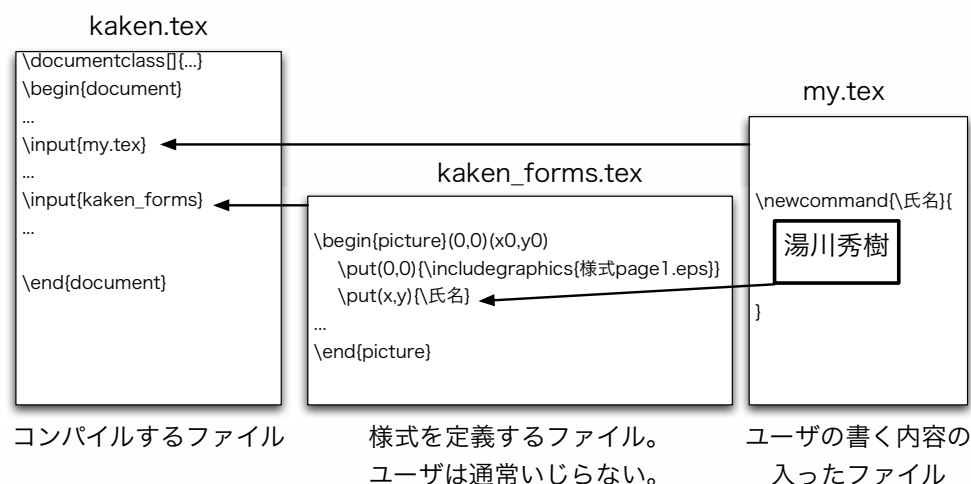


図 1: def 形式のファイル。ユーザーの書くファイルと、様式を定義するファイルは分かれている。

4.2 ユーザーの書くファイル

ユーザーが書くファイル (*kiban_ab.tex*, *kiban_ab_01-02_purpose.tex* など) の中では、例えば次のように、各項目の内容を `\newcommand` でマクロに定義します。

```
\newcommand{\研究代表者氏名}{%
  %begin 研究代表者氏名  = = = =
  湯川秀樹
  %end 研究代表者氏名  = = = =
}

\newcommand{\研究目的}{%
  %begin 研究目的  = = = = =
  この研究の目的は、どうのこうの、ああたらこうたら。。。
}
```

```
%end 研究目的  = = = = =
}
```

4.3 様式等を定義するファイル

様式や文を配置する `picture` 空間の座標原点は紙の左下の角、単位は `point` になっています。これによって、`ghostview` などで簡単に枠の位置などを測ることができます。(埼玉大学の櫻井力氏の提言による)

4.3.1 内容が 1 ページ内に収まる場合

書く内容が 1 ページ内に収まる、簡単な文字列の場合は、様式等を定義するファイルの中では、例えば次のように定義されたマクロを用いて、定義した内容を指定した場所に埋め込みます。

```
\put(100,200){
  \parbox[t]{250}{
    \研究代表者氏名
  }
}
```

ここで、(100, 200) は文字を書き始めるベースラインの座標で、[250] は `\parbox` の幅です。

また、リストや表などを含む可能性のある文章の場合は、

```
\put(100,500){
  \begin{minipage}[t]{250}
    \研究目的
  \end{minipage}
}
```

のように、`minipage` の環境の中に文章を流し込みます。

様式の枠などは、

```
\put(0,0){\includegraphics{...}}
```

を用いて、一ページごとに図形として貼付けます。

4.3.2 内容が複数ページにまたがる場合

「研究目的」のように、書く内容が複数ページにまたがる場合は、図 2 に示すように、左と上のマージン、およびテキスト領域の幅と高さを指定し、その中に内容を流し込みます。

この場合、`watermark` というパッケージを使い、様式などの枠は背景の図形として貼付けます。最初のページ用の背景、それ以外の偶数ページ用の背景、奇数ページ用の背景をそれぞれ指定できるので、3 ページにわたって異なる様式のページを扱えます。2 ページ目以降が同じ様式の場合は、ページ数の制限はありません。

この方式により、`figure` や `table` のような `floating` 環境も自由にページ間を動かことができます。

5 マクロの説明

ここで用いているマクロは全て `kakenhi2.sty` に入っています。以下、ユーザーが触れる可能性の高い順に説明します。

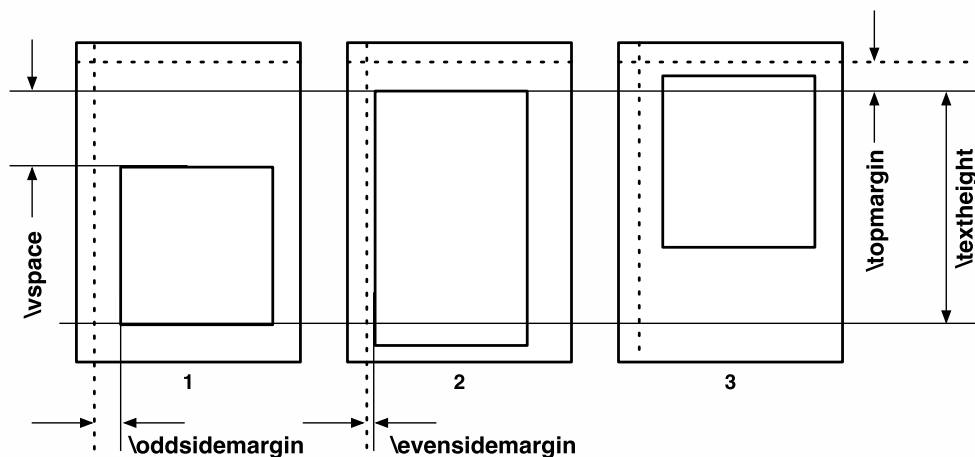


図 2: ページをまたがる内容を入れるための各種パラメータの設定

5.1 予算の表計算のための \LaTeX マクロ

予算の表のために次のマクロを用意しています。また、このマクロを使うことにより、金額が各年度の各項目ごとに合計金額が自動的に計算され、後の表示などに使われます。また、 \LaTeX のタイプセットをしたときに、コンソールに金額の合計が表示されます。さらに、3.4.3 節に示した方法で予算のまとめの表が作られます。

$\backslash\text{KLItemCost}\{\text{品名}\}\{\text{金額}\}$ 金額は半角文字で、コンマを入れずに書いてください。品名と金額を&ではさみ、最後に改行の $\backslash\backslash$ が出力されます。

$\backslash\text{KLItemNumUnitCost}\{\text{品名}\}\{\text{個数}\}\{\text{単価}\}$ 個数と金額は半角文字で、コンマを入れずに書いて下さい。また、個数と単価をかけた金額が自動的に計算されます。

$\backslash\text{KLYearItemNumUnitCostTwo}\{\text{年度}\}\{\text{品名}\}\{\text{個数}\}\{\text{単価}\}\{\text{設置機関}\}\{\text{購入時期}\}$ 年度、設置機関、購入時期も含めて記入するためのマクロです。同じ年度内の二つ目の品目からは、「年度」の引数は $\{\}$ のように空欄にしてください。個数と金額は半角文字で、コンマを入れずに書いて下さい。また、個数と単価をかけた金額が自動的に計算されます。

5.2 表の中身の位置を調整するための \LaTeX マクロ

表は `tabular` 環境を用いて定義しており、様式の表に合わせるために各カラムの幅は `p\{...\}` を用いて指定しています。ただし、この方法だとカラムの中はパラグラフとして扱われるため、カラムの中身は左に寄せて書かれます。しかし、中身を中央にそろえたり右に寄せたりするために、次のマクロを用意しています。

$\backslash\text{KLTabR}\{\text{テキスト}\}$ 「テキスト」の内容を、カラムの右に寄せます。

ただし、そのカラム内がすべて $\backslash\text{KLTabR}$ を用いて書かれていると、うまく右に寄りません。そのために、`phantom\{1\}` などが入った偽の行を入れています。

ただし、その方法も使えない場合は、 $\backslash\text{KLCostWidth}$ という長さ変数に有限の値を入れると、その幅の箱を確保して、その箱の中で右寄せします。

$\backslash\text{KLTabRNum}\{\text{数値}\}$ 「数値」をカラムの右に寄せ、3 桁ごとにカンマを入れます。

$\backslash\text{KLTabC}\{\text{テキスト}\}$ 「テキスト」の内容を、カラムの中央にセンタリングします。

5.2.1 例

\LaTeX のソース.....
 $\backslash\begin{tabular}\{p\{4cm\}p\{2cm\}p\{2cm\}p\{3cm\}\}$
 $\backslash\hline$
研究課題名 & 区分 & エフォート & 研究費 $\backslash\backslash$
 $\backslash\hline$
学術の振興 & $\backslash\text{\KLTabC}\{採択\}$ & $\backslash\text{\KLTabR}\{10\%\}$ & $\backslash\text{\KLTabRNum}\{1230000\}$ $\backslash\backslash$
 $\backslash\hline$
 $\backslash\end{tabular}$
出力結果.....

研究課題名	区分	エフォート	研究費
学術の振興	採択	10%	1,230,000

5.3 picture 空間の座標

各ページで使われている picture 空間の座標は、 $\backslash\text{\KLOddPictureX}$ 、 $\backslash\text{\KLEvenPictureX}$ 、 $\backslash\text{\KLPictureY}$ という変数を調整して、A4 の紙の左下の角が原点になるようにしています。 x の正の方向は右向き、 y の正の方向は上向きになっています。長さの単位は、points です。

5.4 文章などを枠内に入れるための \TeX マクロ

文章を指定した位置に配置するために、2007 年春に新たに作った次のマクロを用いています。

$\backslash\text{\KLParbox}\{xleft\}\{ytop\}\{xright\}\{ybottom\}\{pos\}\{...\}$ 左上の座標 ($xleft$, $ytop$)、右下の座標 ($xright$, $ybottom$) を角とする箱の中に、 $\{...\}$ の内容を入れる。pos = t, c, b によって、その箱の中での高さ方向の位置を指定する。段落の開始は 1 文字分下げする。リストや表を含まない、短い文や行を入れるのに用いている。

$\backslash\text{\KLTextBox}\{xleft\}\{ytop\}\{xright\}\{ybottom\}\{side_margin\}\{...\}$ 左上の座標 ($xleft$, $ytop$)、右下の座標 ($xright$, $ybottom$) を角とする箱の中に、 $\{...\}$ の内容を入れる。side_margin によって、その箱の中の横方向のマージンを指定する。指定しない場合は、デフォルトの値が入る。高さ方向にはセンタリングされ、字下げはないので、「研究機関名」など、1 ~ 2 行、小さな箱にきっちり詰めて書くのに用いている。

$\text{\KLMinipage}\{xleft\}\{ytop\}\{xright\}\{...\}$ 左上の角の座標が ($xleft$, $ytop$)、右上の角の座標が ($xright$, $ytop$) の枠の中に minipage を作り、枠から少しマージンを取った内側に $\{...\}$ の内容を入れる。段落の開始は 1 文字分下げをする。minipage なので、リストや表が入っても構わない。

$\text{\KLNoMarginMinipage}\{xleft\}\{ytop\}\{xright\}\{...\}$ 左上の角の座標が ($xleft$, $ytop$)、右上の角の座標が ($xright$, $ytop$) の枠の中に minipage を作り、枠のふちにそろえて (つまり、マージンはなしで) $\{...\}$ の内容を入れる。字下げはしない。tabular などを枠ギリギリに入れたりするのに用いている。

6 困った時は

6.1 よくあるかもしれない質問集

(" *kiban_ab* " は、お使いの科研費の種目に置き換えて読んで下さい。)

6.1.1 用いるファイルの種類

- 文字コードとして、sjis, euc, jis が用意されていますが、どちらを用いればいいですか。

Linux は euc や jis、Mac OS X は sjis や euc、Windows は sjis が一般的です。ターミナル (Windows の場合はコマンドプロンプト) で

```
$ platex -version
```

と打ってみて、最初の行を見て下さい。

- xxx_def, xxx_def_multi (xxx = sjis, euc, jis) と 2 種類の directory/folder が用意されていますが、どれを用いればいいですか。

これは、好みと環境によりますが、Mac OS X の TeXShop や mi を使う場合は xxx_def、Windows の Winshell を使う場合は xxx_def_multi がお勧めです。

6.1.2 編集

- 私は湯川秀樹ではない、象の卵以外の研究をしたい、...
コンパイルする L^AT_EX のソースファイル (例えば *kiban_ab.tex*) の初めの方に、研究代表者氏名、研究課題名、などの基本情報を 書く部分がありますので、そこを編集してください。
- 文字の大きさを自分で調整したいのですが。
文字の大きさを調整したい部分、文章を `{\small ... }`, `{\footnotesize ... }`, `{\large ... }`, `{\Large ... }` などを使ってください。ただし、本文の文章などのフォントの大きさには 規定があるので、注意してください。
- 自動的に書かれる内容 (例えば、基盤 A,B,C の研究者調書の「本応募研究課題」など) の文字の大きさを調整したいのですが。
その内容 (例えば「研究課題名」) を実際に枠内に書き込んでいる部分で、そのコマンドを `\small{ \研究課題名 }` のように囲ってください。def 形式や def_multi 形式の場合は、form file (例えば *kiban_ab.forms.tex*) の 中を編集してください。
- 文字の場所など、自分で調整したいのですが
様式を定義するファイルの中で、文字の場所などを指定していますので、それを調整してください。
- 何も書かれていないソースファイルはないのですか。
図形の取り込みや表の書き方など、例があった方がわかりやすいので、あえて内容のないソースファイルは用意していません。ほとんどあり得ない文や項目が、例として入っていますので、それらを置き換えつつ書いて下さい。
- 特定のページに編集時に飛びたいのですが。
各ページや項目の頭に、ダミーの `\section` や `\subsection` を組み込んでいます。Mac OS X の TeXShop や mi など、これらのタグに飛び機能を持つエディターの場合は、プルダウンメニューから目的のタグを選んでください。そうした機能を持たないエディターの場合は、それらのタグを検索するか、もしくは xxx_sjis_multi のフォルダーを用いて、編集ファイルを切り替えてください。
- 用いる様式は、eps と PDF のどちらを使えばよいですか。
作業のしやすさによります。どちらが速くコンパイルして表示できるか、両者試してみて、選んでください。Mac OS X で TeXShop を使っている場合は、PDF がお勧めです。
- 予算の総額や年度毎の合計を見たいのですが。
簡単な合計は、コンソールに出力されます。また、ソースファイルの初めの方で

```
\setboolean{BudgetSummary}{true}
```


のように、一行コメントをはずしてコンパイルし直すと、予算の表のページと、年度ごと、項目ごとにまとめた表が作成されます。

6.1.3 L^AT_EX のコンパイル / タイプセット時

- Underfull \hbox (badness 10000) in という warning が出る。
特に狭いカラムの表などに、文字を入れる場合などに置きます。「ちょっとかっこ悪いけれど、仕方なく改行した」、程度のことですので、無視してください。
- Overfull \hbox (116.65622pt too wide) in paragraph at lines 8–67 というような warning が出る。
「研究目的つづき」のように、自動的にページをまたいで書ける種目については、技術的な手法上、この warning は出ます。無視してください。
- !LaTeX Error: File “calc.sty” not found. などというエラーメッセージが出る。
calc.sty, longtable.sty などは、L^AT_EX の tools package に含まれています。もし持っていない場合は、tools パッケージを <http://www.ctan.org/tex-archive/macros/latex/required/tools/> からダウンロードしてインストールして下さい。
- 様式の eps ファイルが割と大きいのですが。
Ghostscript の version や環境によらず使えるように、フォントを埋め込んだ eps ファイルになっています。ご了承ください。(ただし、基盤 S や文部科学省の科研費の書類の場合は、EPS の方が小さくなります。)
- 読み込む様式を PDF に指定したら、うまく表示されない。
xdvi や dviout などでは、うまく dvi ファイルを表示できない場合が多いようです。それでも、新しい dvipdfmx (少なくとも 20050831 以降) など、であれば、PDF ファイルは正しく生成できるはずです。また、dvipdfmx 20040411 でも、“-V 4” のオプションをつけることにより、PDF の様式を取り込みます。うまくできない場合は、新しい dvipdfmx を入れるか、eps 形式の様式を使ってください。3.3 節「動作環境」の表を参考にしてください。
- 日本語が正しく表示されない。
pLaTeX など、日本語が扱える LaTeX を用いてください。1 行程度の内容の簡単な日本語の LaTeX ソースをコンパイルできるか、試してください。もし、様式の文字が化けている場合は、eps 形式の様式を用いるように *kiban_ab.tex* を変えてください。

6.1.4 電子申請

- 2006 年秋から始まる電子申請に対応していますか。
はい、dvipdfmx 等を用いて PDF のファイルにしたものを提出できます。
- PS の出力ファイルを、電子申請で提出できますか。
いいえ、できません。必ず、PDF ファイルにして提出して下さい。
- 提出する PDF ファイルの大きさが 3MByte の制限を越えてしまったのですが。
大きな写真や図を入れたためと考えられます。それらの解像度を下げてみてください。また、読み込む様式を EPS から PDF、もしくは PDF から EPS に切り替えると、サイズが小さくなる場合があります。

6.1.5 その他

- 今までの「科研費マクロ」とどう違うのですか。
一言で言うと、「科研費マクロ」は、必要な情報を書きこむと科研費の応募書類が生成される、「科研費 L^AT_EX」は、既にある枠付きの様式に L^AT_EX を使って書き込む、という姿勢の違いがあります。

- 「科研費マクロ」があるのに、どうして別のものを作ったのですか。
「科研費 \LaTeX 」を作った趣旨は、日本学術振興会が公認する書式を、できるだけ早く、少ない手間で作ろう、というものです。学振が公認するためには、様式が公式のものと完全に一致していると保障されていることが条件であり、そのために、現在の「科研費マクロ」のように枠や説明文を \TeX で作るのではなく、公式の PDF ファイルから図形として取り込むことにしました。まだ、20 年の歴史を持つ「科研費マクロ」のようにかゆい所まで手が届くものにはなっていませんが、改良を続けていく予定です。
- 「科研費マクロ」で作った書類は、もう受け付けられないのですか。
今までのように、公式の様式とほとんど同じであれば、受け付けられます。
- もととなった科研費マクロの著作権を犯していませんか。
「科研費マクロ」の開発と維持に携わってこられた青木健一氏（金沢大）の了承を得ています。また、2007 年春からは、科研費マクロから移植したマクロは `\Number` 一つになりました。
- 科研費 \LaTeX は誰が作っていて、今後どのように維持されていくのですか。
これは、日本学術振興会の下での学術システム研究センターの数物系科学専門調査班が提唱して、始めたものです。今年は、まずは山中卓（阪大）調査員が作りました。今後の維持、運用についてはまた検討していきます。
- マクロや変数の頭の”KL”は長寿命の K 中間子 K_L の意味ですか。
いいえ、`KakenhiLaTeX` の略です。
- サンプルの内容が生物学的に考えてもおかしい。
このままではほぼ確実に審査を通りませんので、提出する前に書き換えてください。

6.2 質問、コメント

その他の質問、コメントは、まず「科研費マクロ& \LaTeX 掲示板」

<http://atom11.phys.ocha.ac.jp/kakenhibbs/tree.php> に出してください。

それでも解決しない場合は、山中 卓 (大阪大学理学研究科 物理学専攻 / 数物系科学専門調査員) taku@hep.sci.osaka-u.ac.jp までご連絡ください。

日本学術振興会や学術システム研究センターでは、対応しかねます。

7 謝辞

「科研費 \LaTeX 」の作成に当たっては、「科研費マクロサポートチーム」の皆様から助言や提言をいただきました。伊藤希氏 (筑波大学) は、フォントを組み込んだ EPS 書式を作成して下さいました。櫻井力氏 (埼玉大学) は、`picture` 環境を用いる方法を提言して下さり、その方法は 2007 年春の公開版から取り入れました。家正則主任研究員は、 \LaTeX 版の実現を強く推して下さいました。日本学術振興会の担当者の方には、今回の実現と様式の提供などの便宜を図っていただきました。天羽優子氏は、掲示板を科研費 \LaTeX の議論にも開放して下さいました。方々の友人には、様々な環境でテストをしてもらいました。また、我々の研究室の秘書が、面倒なファイルの作成を行いました。この場を借りて、皆様に深くお礼申し上げます。

科研費 \LaTeX の開発は、Mac OS X 10.4.9 の下で、 \TeX 3.141592-p3.1.9 (SJIS) (Web2C 7.5.4) (小川版), \TeX Shop 2.10b, Python 2.4.4, Vim 6.2, PDFLab 2.0.3, Illustrator CS2 などを用いて行いました。